

### 3学期はキャリア学習

「まだ、自分の将来なんて考えたことがない。」という人もいっぱいいるかもしれませんが、「こんな仕事をしてみたい。」「こんな夢を持っている。」と思っている人は多いと思います。3学期は自分がやってみたいことはもちろん、それ以外のこともいろいろ勉強して、自分の将来を考える上で参考にしていきましょう。高校のことは具体的には考えたことがないかもしれませんが、身近な高校からこんな道に進んだ人もいますので紹介しておきます。

## 決意

### 兵庫の「ドラマー」に聞く

③

単独のドラム1位指名で西武入りした松本航投手。明石商高時代は全国的に注目を集める存在ではなく、夏の兵庫大会はベスト8が最高だった。日体大進学後に才能が開花し、回数の多い直球を武器に首都大学リーグでは4年間で通算30勝、300奪三振を達成した。3、4年時には大学日本代表に選出され、昨夏の日采大学選手権では最優秀投手にも輝いた。「僕の原因」と語る母校明石商での日々を振り返る。

明石商高出身で初のプロ野球選手。

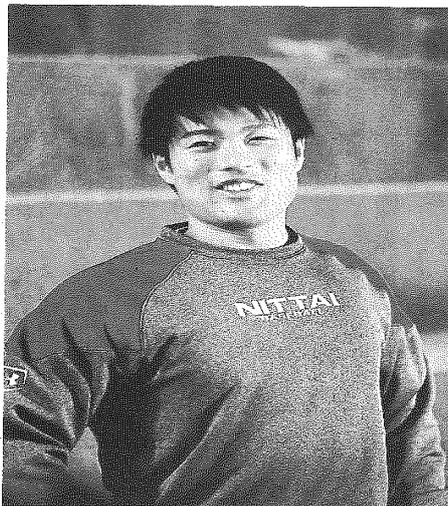
「狭間(善徳)監督、スタッフ、コーチらに高校時代の恩返しできたかなと。高校時代に勝つに對するこだわり、執念、一つ勝つことの難しさや大切さ、その意識を狭間監督から学んだ。一番大きかったのは多く(試合)投げさせてもらったこと。試合に対する入り方も投げる体力がついたことで、大学でもびびらなく自信を持って投げるようになった。」

#### 高校が原点

「自ら、明石商が原点」と言う。

「中学までは野球が楽

### 西武(明石商高一) 日体大(明石商高一) 松本航



まつもと・わたる 1996年11月生まれ。朝来市出身。同市立梁瀬中から明石商高に進み、日体大では大学日本代表に選出。176cm、84kg。右投げ右打ち (撮影・斎藤雅志)

「聞き手・高崎真彦」  
「好き」という純粋な気持ちでやってきたが、高準々決勝で先発し、六回にも自信がなかった。狭間監督と相談してレベルが高涼も1位指名。体育やスポーツの知識を増やしながら成長できる一線(同じ兵庫出身者)として頑張ろう」と言い合っていた。入学後、変化球を練習していた。甲斐野とは(中学時代)ボール県選抜から仲間が良く尊敬している。いわれ、そこから毎日直球を投げ込んできた。自分(代表)と一緒に投げた時、特徴やフォーム、体の激しさを最大限に生かすことを意識し、入学前に思い描いていた以上の成長ができた。

校で野球に對して本気にならな... ボークから同点に追いつか... るメッチが入った。夜遅くまで毎日の練習に必死に... 食らいつき「まくならなかった」という強い思いを持ち... てやった。階段タッシュな... どしどし練習ばかりだっ... たけど、基礎体力や根性が... ついた」  
「高校時代、思い出に残... る試合は... 準々決勝の西脇工戦。1学... 年上に能力のある選手がそ... ろい、くじ運もよくて甲子... 学した。」  
「自分の中で、プロに進... 出たいという思いが、大学へ進... 出た。高校の時点でもプロか... 準々決勝の西脇工戦。1学... 年上に能力のある選手がそ... ろい、くじ運もよくて甲子... 学した。」



明石商高時代、チームをけん引した松本航(2014年7月、明石トイカ)

## 1年目から活躍したい

#### 同級生に刺激

「憧れだったプロ生活がスタートする。」  
「息の長い選手になりたい。即戦力として取ってほしいので、新人主が目標。1年目からチームの勝利に貢献できる活躍をしていきたい。」

同郷の同級生の東洋大・甲斐野央、立命大・辰巳